2024 年 アメリカ学会 第 58 回年次大会 プログラム

1. **開催日**　2024 年 6 月 1 日（土）・6 月 2 日（日）
2. **会場**　早稲田大学早稲田キャンパス国際会議場
   大会企画委員長 下斗米　秀之　h_shimotomai アットマーク meiji.ac.jp
   会場責任者　麻生　享志　asoes アットマーク waseda.jp
3. **プログラム**
   ＊タイトルの日英別は、発表言語によるものです。
   ＊今大会の分科会はオンラインで開催されます。各分科会の開催時間等は別にお知らせいたします。

第 1 日 2024 年 6 月 1 日（土）
午前の部
自由論題報告　10:00～12:00

【Session A 人種をめぐる政治と戦争 Politics and Wars over Race】国際会議場 3 階第一会議室

1. 司会・討論者：佐藤円（大妻女子大学）
   報告者：塚田浩幸（亜細亜大学・非）
   「アーリー・アメリカン・ホロコーストへのアクセルとブレーキ――対立空間における先住民戦争（ピークォート戦争を中心に）」
2. 司会・討論者：一政史織（中央大学）
   報告者：増田直子（津田塾大学）
   「アメリカ・フレンズ奉仕団が日系アメリカ人再定住政策に及ぼした影響――戦時転住局との関係を中心に」
3. 司会・討論者：黒﨑真（神田外語大学）
   報告者：小林勇人（日本福祉大学）
   「公民権運動の転換期における福祉政策――チャールズ・エヴァーズの戦略をもとに」

【Session B 身体性とウィルダネスの再想 Reimagining the Corporeality and Wilderness】国際会議場 3 階第二会議室

4. 司会：中垣恒太郎（専修大学）
   討論者：山口和彦（上智大学）*司会者によるコメント原稿代読
   報告者：森兼寛登（広島大学・院）
   「Cormac McCarthy の The Border Trilogy における手の表象と宗教性」
5. 司会・討論者：Yuki Maruyama 丸山雄生（Tokai University 東海大学）

報告者：Azumi Sakamoto 阪本杏実（Graduate Student, Waseda University 早稲田大学・院）

"African "Killer" Bees in 1970s Horror Films: An Interplay of Scientific, Social, and Cultural Discourse"

6. 司会・討論者：Keita Hatooka 波戸岡景太（Meiji University 明治大学）
   報告者：Kerong Chen（Graduate Student, Waseda University 早稲田大学・院）
   "Cold Mountain, Groovin': An Imagined Wilderness as the *Counter*-Rhythm to the Fusion of a Beatnik "Americanness""

【Session C 文学と映画におけるアイデンティティと抵抗 Identity and Resistance in Literature and Film】国際会議場 3 階第三会議室

7. 司会・討論者：Michael Larson（Keio University 慶應義塾大学）
   報告者：Jiro Morishita 森下二郎（National Institute of Technology, Kagawa College 香川高等専門学校）
   "Apologetic Authority and Victorious Victimhood: The Cold War, Postmodernism, and Post-Feminism in Donald Barthelme's *The Dead Father* (1975)"
8. 司会・討論者：Yukihiro Tsukada 塚田幸光（Kwansei Gakuin University 関西学院大学）
   報告者：Kenta Kato 加藤健太 （Graduate Student, Waseda University 早稲田大学・院）
   "The Temporality of Male Melodrama in Clint Eastwood Films"
9. 司会・討論者：Yuko Miyamoto 宮本裕子（Rikkyo University 立教大学）
   報告者：Ka Sin LEE（Graduate Student, Waseda University 早稲田大学・院）
   "Deglamorizing the Star in Same-Sex Romance: The Subjectification of the Star-Embodied Lesbian Body in *Disobedience* (2017)"

休憩　　12:00～12:30
理事・評議員会　11:30～12:30 国際会議場 1 階井深ホール

午後の部　国際会議場 1 階井深ホール
ASAK 会長講演　12:30～13:00
Jee Hyun An（Seoul National University）
"Toni Morrison's *Home*: The Unbearable Homelessness of (Non)-Being in the American Empire"

シンポジウム「統合と分断のアメリカ－大陸会議開催 250 年」13:00〜16:00
司会：矢島宏紀（昭和女子大学）・菅（七戸）美弥（東京学芸大学）
討論者：岡山裕（慶應義塾大学）・小倉いずみ（大東文化大学・名）
報告者：
森丈夫（福岡大学）
「イロコイ連合と「隣人たち」の 200 年――同盟・支配・分裂の 17-18 世紀大陸史」
石川敬史（帝京大学）
「革命機関としての邦議会と帝国としての連邦政府」
鈴木透（慶應義塾大学）
「物語が作ったアメリカ――危機と統合の文化史」
松本俊太（名城大学）
「三権の筆頭格としての連邦議会とその地位の低下」

――――――――――

第 2 日 2024 年 6 月 2 日（日）
午前の部
部会・ワークショップ 10:00〜12:30

【 ワークショップ A OAH-JAAS Workshop: Human Rights, Secrecy, and Cultural Diplomacy in Twentieth-Century America】国際会議場 3 階第一会議室
Chair: Itsuki Kurashina 倉科一希（Doshisha University　同志社大学）
Speakers:
Sam Lebovic (OAH, George Mason University)
“The Japanese Spy Scare and the Origins of American Secrecy”
Hideaki Kami 上英明 (The University of Tokyo 東京大学)
“Havana’s USA: Sister Cities, Sports, and the Making of People-to-People Communication”
Carl Bon Tempo (OAH, SUNY Albany)
“Human Rights and Free Market, 1975-1990: The View from Outside the Ivory Tower”

【部会 A 西部フロンティアをめぐるアメリカ大衆文化の想像力・再考】国際会議場 3 階第二会議室
司会：石原剛（東京大学）
討論者：ウェルズ恵子（立命館大学）
報告者：
井上博之（東京大学）

「『荒馬と女』におけるマリリン・モンローと西部の変容」
関根路代（日本工業大学）
「ホイットマンの「西部」――ジオポエティックスの観点から」
永冨真梨（関西大学）
「カントリー音楽のクィアな西部――ジェンダー/セクシュアリティと階級の交差する場所」
鈴木紀子（大妻女子大学）
「トランスナショナル・ウェスト――戦後日本の西部劇漫画における『西部』の受容とアダプテーション」

【部会 B　Transcultural Dialogues in the Age of War & Pandemic】国際会議場 3 階第三会議室
Chair: Takashi Aso 麻生享志（Waseda University 早稲田大学）
Discussant: Mike Fu（Waseda University 早稲田大学）
Speakers:
Mitsuhiro Yoshimoto 吉本光宏（Waseda University 早稲田大学）
"From *Shin Godzilla* to *Godzilla Minus One*"
Takashi Aso 麻生享志（Waseda University 早稲田大学）
"The Formation of Transpacific Vietnamese American Studies in the early 21st Century"
Porranee Singpliam (Chulalongkorn University)
"Raewyn Connell and the Performative Gender of Governance: Crony Patriarchy as Mediated by Popular Press"
Rei Magosaki 孫崎玲 (Chapman University)
"Native American Presence in Japanese American Wartime Incarceration"

休憩　　12:30～13:00
新理事会　12:30～13:00 国際会議場 1 階井深ホール
総会　　13:00～13:30 国際会議場 1 階井深ホール

午後の部
部会・ワークショップ 13:40～16:40

【ワークショップ B ASA-JAAS Workshop: Climate Change, 'Natural' Disaster, and Global Unrest】国際会議場 3 階第一会議室
Chair: Kyoko Hearn Shoji　ハーン小路恭子（Senshu University　専修大学）
Discussant: Kei Hinohara　日野原慶（Daito Bunka University　大東文化大学）

Speakers:
Julie Sze (ASA, University of California, Davis)
“Stories from the Frontline: Resistance, Reparations and Restorative Climate Justice”
Iyko Day (ASA, Mount Holyoke College)
“Nuclear Power and the Waste Theory of Value”
Kyoko Matsunaga　松永京子（Hiroshima University　広島大学）
“Aridity, Nuclearism, and Literary Imagination of the "Desert" Southwest”

【部会 C 越境するマイノリティ研究】国際会議場 3 階第二会議室
司会：佐原彩子（共立女子大学）
討論者：石山徳子（明治大学）
報告者：
徳永悠（京都大学）
「在米日系人の経験と環太平洋史研究」
李里花（中央大学）
「在日コリアン研究からみるマイノリティ研究の現在――関係論的アプローチへのシフト」
松坂裕晃（立命館大学）
「帝国を伝う詩：クロード・マッケイ「もし死なねばならぬなら」の朝鮮語訳と日本語訳」

【部会 D アメリカの国際関係史・外交史と民間団体】国際会議場 3 階第三会議室
司会：三牧聖子（同志社大学）
討論者：小野沢透（京都大学）
報告者：
佐藤真千子（静岡県立大学）
「アメリカの国際 NGO は人権アドボカシーと外交政策をどう変えてきたか」
奥田俊介（名古屋外国語大学）
「民間財団は『独立した』アクターか？――1960 年代のフォード財団とアメリカ政府の関係性を例に」
宮田智之（帝京大学）
「トランプ現象と保守系シンクタンクの変容」

4. 注意事項

1） 今大会は，分科会（オンライン開催）を除き対面のみでの開催となります。オンライ

ンでの配信はありません。ご注意ください。

2） 大会参加登録は，学会ウェブサイトの大会参加登録ページ上で，必ず 2024 年 5 月 19 日（日）までにお願いいたします。参加登録ページの URL は，アメリカ学会会員用メーリングリストにて配信いたします。会員の方でメールが届かなかった方は，「迷惑メール（junk mail)」フォルダもご確認ください。見つからなかった場合は，お手数をおかけして大変申し訳ございませんが，学会 HP の「お問い合わせ・応募フォーム」の年次大会企画委員会までご連絡ください。

3） 大会期間中，キャンパス内の食堂は使用できません。

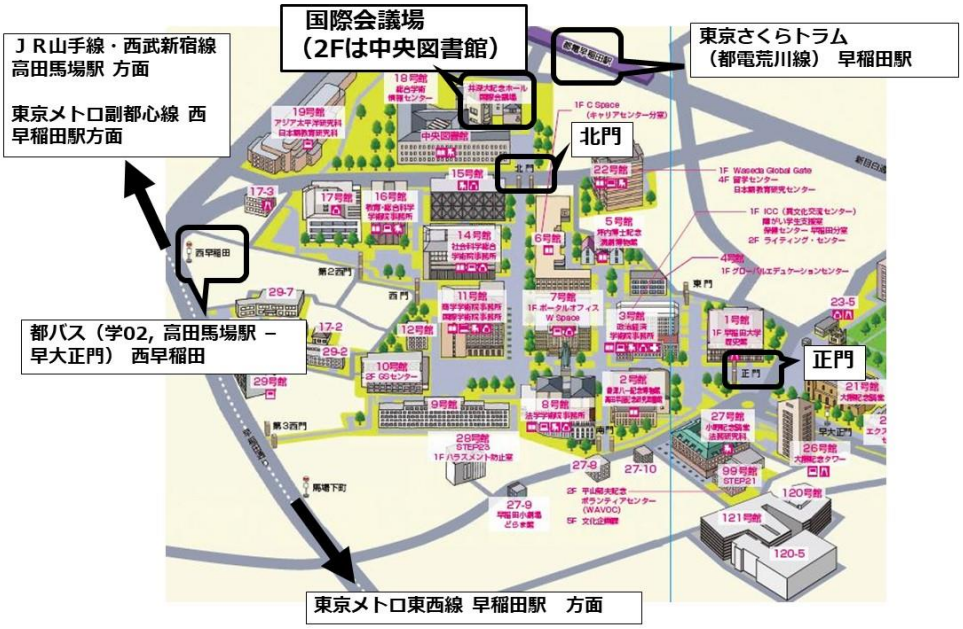
4） 今大会は懇親会を開催いたしませんのでご了承ください。

5. 会場案内

受付　国際会議場 1 階ロビー
大会本部・役員控室　国際会議場 3 階市島会議室
会員控室・外国ゲスト控室　国際会議場 4 階共同研究室 1 ～ 3
賛助会員（書店）ブース　国際会議場 1 階ロビー

＜早稲田大学早稲田キャンパスへのアクセス＞
・ＪＲ 山手線 高田馬場駅から徒歩 20 分
・西武鉄道 西武新宿線 高田馬場駅から徒歩 20 分
・東京メトロ 東西線 早稲田駅から徒歩 5 分
・東京メトロ副都心線 西早稲田駅から徒歩 17 分
・都バス 学 02 （学バス） 高田馬場駅 – 早大正門
・東京さくらトラム（都電 荒川線） 早稲田駅から徒歩 5 分

国際会議場は早稲田キャンパス「北門」の向い側にある中央図書館の建物の 1 階にあります。中央図書館を目印にお越しください。


国際会議場
（2Fは中央図書館）
東京さくらトラム
（都電荒川線） 早稲田駅
ＪＲ山手線・西武新宿線
高田馬場駅 方面
東京メトロ副都心線 西
早稲田駅方面
北門
正門
都バス（学02, 高田馬場駅 －
早大正門） 西早稲田
東京メトロ東西線 早稲田駅 方面
西早稲田
馬場下町
第2西門
第3西門
西門
東門
南門
中央図書館
19号館
アジア太平洋研究科
日本語教育研究科
18号館
総合学術
情報センター
15号館
北門
22号館
1F C Space
（キャリアセンター分室）
1F Waseda Global Gate
4F 留学センター
日本語教育研究センター
1F ICC（異文化交流センター）
障がい学生支援室
保健センター 早稲田分室
2F ライティング・センター
5号館
6号館
4号館
1F グローバルエデュケーションセンター
17-3
17号館
16号館
教育・総合科学
学術院事務所
14号館
社会科学総合
学術院事務所
29-7
17-2
29-2
29号館
12号館
11号館
商学学術院事務所
理工学術院事務所
7号館
1F ポータルオフィス
W Space
3号館
政治経済
学術院事務所
1号館
1F 早稲田大学
歴史館
23-5
21号館
大隈記念講堂
10号館
2F GG センター
9号館
8号館
法学学術院事務所
2号館
27号館
小野梓記念館
法務研究科
26号館
大隈記念タワー
28号館
STEP23
1F ハラスメント防止室
27-8
27-10
99号館
STEP21
120号館
121号館
120-5
27-9
早稲田小講堂
25本館
2F 平山郁夫記念
ボランティアセンター
（WAVOC）
5F 文化企画室
早大正門

第 58 回年次大会 分科会のご案内

* 本大会の分科会はすべてオンラインでの開催となります。

* 未定のスケジュール等については後日改めて通知いたします。

1.「アメリカ政治」

責任者：松井孝太（杏林大学）　kmatsui アットマーク ks.kyorin-u.ac.jp

報告１：松本明日香 （東北大学）「表現の自由とフェイクニュースの行方――2024 年米大統領予備選挙における SNS 論争」

報告２：宇野正祥 （東京大学・院）「アメリカ保守主義政治運動における政策的立場の断続的平衡」

開催日時／形式：5 月 31 日（金）19：00～20：40／ ZOOM で開催（URL 等は後日連絡）

本年度のアメリカ政治分科会は、2 名の会員より、アメリカ政治の各分野における最新の研究成果を報告いただく。松本会員は、アメリカのメディア選挙におけるフェイクニュース前史と理論的背景を整理した上で、フェイクニュースがより悪化するといわれる 2023 年影の予備選挙から 2024 年予備選挙における相反する「表現の自由」と「フェイクニュース」の様態を、①SNS 凍結・解禁、②予備選挙討論会不参加、③TikTok 禁止法案と Z 世代などの観点から論じる。宇野会員は、アメリカの保守主義政治運動の K-12（初等・中等）教育領域における政策的立場の変遷を事例とし、独任制行政長官（大統領／知事）の予備選挙に着目して、政治的価値に基づく政策革新・制度変化を志向するイデオロギー的政治運動におけるイデオロギーと政策的立場の対応関係の形成と変化のモデルを提示する。

２.「アメリカ国際関係史」

責任者：吉留公太（神奈川大学）ft101846 アットマーク jindai.jp

報告者：青野利彦（一橋大学、ケンブリッジ大学）「青野利彦著『冷戦史』上、下（中央公論新社、2023 年）合評会」

討論者：菅英輝（大阪大学、九州大学）

開催日時／形式：6 月 7 日（金）18：00～／ ZOOM で開催（URL 等は後日連絡）

青野会員の著書『冷戦史』は、アジアと日本の動向にも目配りしつつ近年の研究成果を踏まえた冷戦の通史を提示している。執筆意図と主要な論旨を知るとともに、討論者をはじめとして分科会参加者が本書を批評することで冷戦史研究をさらに発展させるための手がかりを得る機会としたい。

３.「日米関係」

本年度休会

４.「経済・経済史」
責任者：手塚沙織（南山大学）　satezuka アットマーク nanzan-u.ac.jp
報告者： 加藤一誠（慶應義塾大学）「“The Big Sort” と交通インフラの近隣効果」
開催日時／形式：5 月 31 日（金）18：00～／ ZOOM で開催（URL 等は後日連絡）

今日、交通インフラの維持管理や更新とその財源調達は日米共通の課題となっている。本報告の問題意識の端緒は、州によって道路状態に差がある理由は何か、ということにある。報告者のパネル分析によれば、州別の道路状態に、連邦政府の投資順位のガイドラインや隣接州の政策が影響を与えている。つまり、ある州の道路状態が良ければ、隣接州の道路も改善される。ここに、住民の投票行動がもたらす影響が示唆される。

また、共和党支持者と民主党支持者の交通への選好は分かれ、たとえば、共和党支持者は道路整備を選ぶ（Nall(2018)）。こうして The Big Sort（2008）でビショップの観察した移住による同一政党支持のコミュニティ形成は、交通政策にも色濃く反映される。

本報告では、地理的近接性が交通政策に及ぼす影響を議論したいと考えている。

５.「アジア系アメリカ研究」
責任者：和泉真澄（同志社大学）mizumi アットマーク mail.doshisha.ac.jp
報告者：Emily Anderson エミリ・アンダーソン（Japanese American National Museum 全米日系人博物館）「「食文化」を通じて新たに探る日系文化――全米日系人博物館の最新プロジェクトの紹介」“Introducing JANM’s New Multi-Year Project: New Approaches to Exploring Japanese American Culture Through Food”
開催日時／形式：5 月 31 日（金）18：00～19：30／ ZOOM で開催（URL 等は後日連絡）

人間にとって食べ物の重要性は言うまでもない。栄養の元以上に、食事は文化、アイデンティティー、歴史、思い出など、さまざまな意味が重なったものでもある。特に今のアメリカでは、日本食・和食の世界的人気に伴い日系アメリカ人の食文化も注目されるようになっている。日系アメリカ人と食べ物との関係は単に日本を離れた日本食の話ではない。移民としての経験、移住前と後の環境、子孫に伝わった食べ物にまつわる「物語」・神話、食べ物の違いや珍しさから生じた差別や偏見など、食べる物を通していろいろなものが見えてくる。本発表では、まだ史料集めが始まったばかりのプロジェクト、2027 年に全米日系人博物館で開催予定の展示の現時点の計画などを紹介する。

６.「アメリカ女性史・ジェンダー研究」
責任者：鈴木周太郎(鶴見大学)： suzuki-s アットマーク tsurumi-u.ac.jp
報告者：並河葉子（神戸市外国語大学）、貴堂嘉之（一橋大学）、鈴木周太郎（鶴見大学）「フィリッパ・レヴァイン『イギリス帝国史: 移民・ジェンダー・植民地へのまなざしから』（並河葉子、森本真美、水谷智訳、昭和堂、2021 年）合評会」

開催日時／形式：5 月 31 日（金）19：30〜21：00／ ZOOM で開催（URL 等は後日連絡）

イギリス近代史研究の並河葉子氏をお招きし、フィリッパ・レヴァイン『イギリス帝国史: 移民・ジェンダー・植民地へのまなざしから』についての合評会をおこなう。イギリス帝国の興亡について、奴隷制／奴隷貿易やジェンダーとセクシュアリティ、あるいは植民地経営とそれへの抵抗といった観点に着目し、社会的・文化的側面を含め詳細に検討された同書について、まずは訳者の一人である並河氏より紹介していただく。その後、貴堂嘉之会員と鈴木周太郎会員より書評コメントを発表し、並河氏による応答後、フロアと質疑応答およびディスカッションをおこなう。女性史、ジェンダー史、奴隷制史、帝国主義、グローバル・ヒストリーなど、広範な関心を持つ会員による活発な議論を期待したい。

７.「アメリカ先住民研究」

責任者：佐藤円(大妻女子大学) mdsato アットマーク otsuma.ac.jp

報告者：小澤奈美恵（立正大学）「ピークォット族の作家ウィリアム・エイプスと 19 世紀の権利拡張運動」

開催日時／形式：5 月 31 日（金）19：00〜20：30／ ZOOM で開催（URL 等は後日連絡）

19 世紀にピークォット族のメソディスト派の牧師として著作活動を行ったウィリアム・エイプス（1798-1839）の紹介を行い、同時代の権利拡張運動との関連性を考察する。エイプスは自伝や説教、マシュピー・ワンパノアグ族の諸権利獲得運動の記録、フィリップ王戦争で滅ぼされたワンパノアグ族の首長フィリップ王メタカム再解釈の書などを残した。こうしたエイプスの業績を、1830 年代のチェロキー族の強制移住反対運動や奴隷制廃止運動の隆盛との関係性の中で捉えなおしていく。これらの運動には、人種・ジェンダーの多様性がみられ、白人知識人だけでなく、先住民、アフリカ系、混血の人々など多種多様な人々が関わり、女性も発言権を拡張しようとしていた。征服された先住民が、支配者の言語である英語やキリスト教、啓蒙主義思想を武器として、逆に先住民の当然の権利を明らかにしていく手法は、多民族国家アメリカを形成する源流と言える。

８.「初期アメリカ」

責任者：鰐淵秀一（明治大学）swanibuchi アットマーク meiji.ac.jp

報告者：佐藤清子（東京大学）「アメリカはキリスト教国家として建国されたのか——キリスト教右派の歴史認識をめぐって」

討論者：佐々木弘通（東北大学）、森本あんり（東京女子大学）

開催日時／形式：6 月 8 日（土）14：00〜15：30／ ZOOM で開催（URL 等は後日連絡）

今年度の初期アメリカ分科会は、佐藤清子氏をゲストに迎え、現代のキリスト教右派に

共有される「キリスト教国論」の検討を通じて、ジェファソンに代表される建国父祖の「当初の意図」をめぐる合衆国の歴史認識問題についてお話しいただく。建国父祖が合衆国をキリスト教国 Christian nation として制度設計を行ったという理解に基づくキリスト教国論は、合衆国憲法修正第 1 条で定められた政教分離の解釈に変更を迫る可能性を持つ議論であり、歴史認識問題にとどまらず、合衆国の政教関係そのものに大きな影響を及ぼす危険性を持つ。まず佐藤氏に、2023 年に下院議長に就任したマイク・ジョンソンの発言や宗教保守派による独自の歴史教科書などの検討から、その内容と影響力についてご紹介いただき、次いで佐々木弘通氏と森本あんり氏にそれぞれ憲法学と宗教史の立場からコメントをいただく。歴史認識問題を通して、初期アメリカが現代合衆国における「過ぎ去らぬ過去」として持つ意味を参加者とともに考える会としたい。

9.「文化・芸術史」
本年度休会

10.「アメリカ社会と人種」
責任者：山本航平（就実大学）duchpb42 アットマーク gmail.com
報告者：児玉真希（獨協大学）「 アンテベラム期のニューオーリンズにおける「見捨てられた」と呼ばれた女性たち――新聞記事から見る「例外主義」と人種間関係」
開催日時／形式：5 月 27 日（月）19：00～21：00／ ZOOM で開催（URL 等は後日連絡）

本報告は、アンテベラム期に奴隷都市として繁栄したニューオーリンズにおける人種関係を「見捨てられた」女性たちの事例から照射し、「ニューオーリンズ例外主義」を再検討する。19 世紀に入ると多様な人がニューオーリンズに定住し、またそれ以上の人が行き交うミシシッピ川とカリブ海を結ぶ海港都市へと発展した。フランス系やクレオール、新たに移住したドイツ、アイルランド系の人々が住み、黒人グループは奴隷だけではなく自由黒人、または混血の人も多くいた。さらに、ハイチ革命後に流入した移民なども加わり、この多言語で複雑な人種関係こそ、ニューオーリンズは他とは異なるという「例外主義」の言説を作り出してきた。本報告では、この「例外主義」の意味を「見捨てられた」女性たちに関する新聞記事から、人種だけではなくジェンダー関係からその意味を考察する。その作業を通じて、人種間関係の線引きを不明瞭にする彼女たちの存在が、ニューオーリンズを「例外」にしていることを明らかにする。